

高き理想

活躍する卒業生～全国特許コンテスト 優秀賞！～

山形大の3学生 優秀賞 全国特許コンテスト

山形大は14日、工学部システム創成工学科の3人が、全国の学生対象の特許コンテスト(特許)コンテストで優秀賞を受賞したと発表した。「折れる電気コード」などユニークなアイデアで、各自生活の中で感じた不便さを「発明」に結びつけた。同大で3人が同時受賞するのは過去最多。受賞したのはいずれも2年の小松瞳子さん(19)、斉藤穂花さん(20)、前沢燎(りや)さん(19)。

組んだ成果で、それぞれ特許を出願した。小松さんは空調を活用する人の歩行補助ができないか発案。商業施設や駅などの公共機関で、送風と排気設備を床に埋め込み、送風の強弱から近くに人がいるかどうかの判断を手助けできる仕組みを考え、授業で視覚が制限された状況を体験したことがきっかけという。

斉藤さんは電気コードの絶縁部の外側に磁石を取り付けることで、コンパクトに収納できる「折れるコード」を発明。大学生になつてパソコンを使う機会が増え、コードの収納に不便さを感じていたことからひらめいた。コードが曲がる部分には伸縮性がある素材を使い、安全に折り曲げやすい工夫した。

前沢さんは荷物を持っている時など、手が使えない際にドアを足で開閉し、固定する補助装置を考案した。足踏み式でローラーやストッパーが作動し、ドアのスムーズな開閉、固定ができる仕組みとした。3人は「これからも柔軟な発想で、より住みやすい社会につなげることを考えていきたい」としている。

コンテストは若い人材の知的財産意識を育てることを目的に文部科学省などが主催。738件の応募の中から特許出願支援を受けられる優秀賞30件に選ばれた。

(大坪千絵)

左は山形新聞に掲載された記事です。記事中にある通り、全国738件の応募の中から特許出願支援を受けられる優秀賞30件に選ばれた一人が、本校の卒業生で現在、山形大学工学部システム創成工学科に在籍する「小松瞳子(こまつ とうこ)」さんです(令和2年3月卒業、担任 鹿野真子先生)。

小松さんは、大学で学んだことを活かし、社会に役立つ技術を開発したいとのビジョンを実現させるため、山形大学工学部に進学されました。

本校を卒業してまだ1年あまりですが、大学での学びを着実に深めておられるようです。優秀賞を受賞されたことをお慶び申し上げますとともに、これから特許支援を受け、さらにアイデアに磨きをかけられることを応援したいと思います。

在校生の皆さんの中には、まだ将来をどう考えたらいいかわからない、という人もたくさんいるでしょう。キャリアを考えるアプローチの仕方は様々ありますが、今日は、小松さんのように「**社会に役立つ**」をキーワードに考えてみてはいかがでしょうか。もしかしたら、この夏、何かが見えるかもしれません。

夏、進路の夏

【1年次】

1学期の総復習のチャンス!

【2年次】

一番自分が成長できる時期、どんな自分になりたいかをじっくり考える良い機会です

【3年次】

やり残したことの補強と1日10時間学習の実行

2022年7月15日 山形新聞

内容についての質問やご意見は
進路指導課 武田 までお知らせください。